

Aiseikai Healthcare Corporation

介護福祉事業部



愛生訪問看護ステーション

看護師長 中川 美樹子

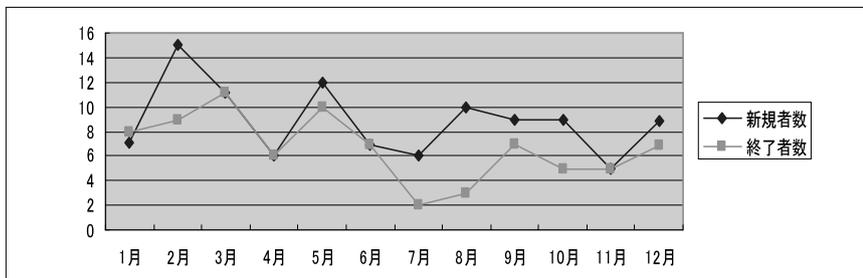
1 特徴

愛生訪問看護ステーションは、看護師5名・理学療法士6名・作業療法士1名・事務員1名となり、予防支援から看取りまで24時間、365日体制で対応をしています。

「がんターミナル患者」「在宅看取り希望者」など医療の必要性が高い利用者さまを積極的に受け入れたことで、地域医療機関や介護支援事業所からの依頼が増加しました。定期巡回・随時対応型訪問介護看護の連携では、7月からサービス付き高齢者住宅への訪問を開始し順調に利用者さまの獲得に繋がっています。また、当ステーションのセラピストが生活機能の維持や向上に向けたリハビリテーションの要望に応じています。看護とセラピストが事業所内で情報共有しながら支援を提供できるのも大きな特徴です。

2 2014年活動実績

- ・地域密着サービス（定期巡回・随時対応型訪問介護看護）事業所との連携継続
サービス付き高齢者住宅入居者の訪問看護開始
- ・延べ訪問利用者数（予防を含む）…………… 1,314人
- ・延べ訪問回数 …… 10,511件（医療保険利用2,444件 介護保険利用8,067件）
- ・新規契約…106人 終了者…80人



- ・事例発表
 - 第4回 日本訪問リハビリテーション協会 学術大会 in 熊本
隔月刊 訪問リハビリテーション第4巻・第6号掲載
- ・訪問看護ステーション能力向上
 - 第8回 訪問リハビリテーション管理者養成研修会 STEP2 1名
 - 第12回 訪問リハビリテーション管理者養成研修会 STEP1 1名
 - 日本看護協会 訪問看護ステーション管理者研修 1名
 - 日本訪問看護財団研修 訪問看護基礎研修 1名
 - 医療的ケア教員講習会 1名

3 2015年目標

- 1) 信頼できる看護とリハビリテーションの提供
- 2) 組織の拡大

あいせいケアステーション

管理者 船場 良介

1 特徴

あいせいケアステーションは平成26年10月1日に新規開設された訪問介護事業所です。現在は管理者兼訪問介護員1名、サービス提供責任者2名の常勤スタッフで稼働しています。非常勤登録ヘルパーの雇用も順次行っており、開設当初から順調に利用者数を増やしています。11月1日からは、障害福祉サービスの事業所指定も受け、在宅での安心した生活を願う方を支援していけるよう、日々活動しております。

2 2014年活動実績

- ・ 介護保険サービス契約数
 - 10月：13件
 - 11月：11件
 - 12月：14件
- ・ 障害福祉サービス契約数
 - 11月～12月：2件
- ・ 利用者介護度内訳
(10月～12月 介護保険サービス・障害福祉サービス合計)

介護度	利用者数
要支援1	7名
要支援2	8名
要介護1	11名
要介護2	6名
要介護3	3名
要介護4	3名
要介護5	2名

3 2015年目標

地域の居宅介護支援事業所との連携を図り、新規利用者の獲得を目指します。同時に、研修への参加や事例検討会の開催によりスタッフの教育の強化に努め、重度の要介護者や、さまざまな困難ケースにも対応できるヘルパーステーションを目指します。

あいせいデイサービスセンター

管理者 中野 正佐仁

1 特徴

職員一同の願いである「利用者さまの笑顔が一つでも多く生まれ、笑顔が集まるデイサービスセンターでありたい」を目標とし、利用者さまの意向を大切にして、生活の質の向上を支援してまいります。

40代～90代の方まで幅広く利用されています。男性の利用者さまが多いこともあり、仕事の話で盛り上がりたりと活気のあるデイサービスとなっています。個別および小集団での機能訓練やレクリエーションに力を入れており、利用者さまが「できるようにになりたいこと」や「やりたいこと」を職員と共に考え、できる喜びを分かち合えるよう、一人一人の課題や希望に応じた個別リハビリ計画を作成し定期的に評価、見直しをおこない、より質の高いケアを提供しております。

2 2014年活動実績

昨年7月に移転し利用定員を32名とし、2014年は1日当たり平均25名の利用者さまに利用していただきました。

季節のイベント

3月 お花見

7月 七夕

8月 スイカ割り ボランティアによる、太鼓・三味線の演奏

9月 敬老の日

10月 運動会 ハロウィンパーティー

12月 クリスマス会

2月 節分

レクリエーションでは、個別性を重視し、麻雀・将棋・囲碁・カラオケ・小物作りや、季節のおやつ作りなど行っています。また、季節のイベントも行っており、その様子を写真に撮影しお配りしたところ家族にも大変好評でした。認知能力低下予防のため脳トレの導入、小集団でのリハビリ体操、パワーリハビリ機器を使用したリハビリもおこなっています。室内での歩行訓練や気候のよい時はスタッフ付き添いのもと屋外でもおこなっています。

3 2015年の目標

利用者さまの自立支援を目指し、セラピストと連携し個別機能訓練を充実、生活機能向上を図っていきます。利用者さまの地域の暮らしを支えるため、地域の団体やボランティア団体等と連携し、地域連携の拠点となれるよう生活相談員の活動を広げていきます。学生の実習施設として、2015年からは新たに日本福祉大学に加え、愛生会看護専門学校の実習生も受け入れることとなりました。利用者さまにとって安心して楽しく機能向上が図れるデイサービスを目指していきます。

愛生居宅介護支援事業所

管理者 中嶋 拓

1 特徴

愛生居宅介護支援事業所は休止していた事業所を、平成17年4月にCKビルに移転してケアマネジャー1名で業務を再開しました。

その後、地域の皆さまの信頼をいただき、現在7名（うち育児休業1名）で月平均約200名の利用者さまを担当させていただいております。平成20年10月には特定事業所の指定を受けて以降、4名が主任介護支援専門員となり日々研鑽に励みつつ、地域の皆さまの期待に応えられるよう、重度、要介護また支援困難な利用者さまにも適切に対応できるよう体制を整えております。

2 2014年活動実績

実働6名のケアマネジャーにより月約200件の利用者さまの支援をさせていただいております。また毎月平均5件の新規依頼を受けております。

入院患者さまが安心して在宅復帰できるよう、介護サービス事業所や医療機関との連携を図り、住み慣れた地域で安心して生活できるよう努力してまいりました。他にも要介護認定調査や介護保険に関する区役所への申請代行も行っています。

地域の連携と個々のスキルアップのため外部研修への積極的参加や事例検討会の開催などケアマネジメントの質の向上に努めました。

3 2015年目標

特定事業所として医療依存度の高い方の早期の在宅シフト、老々介護、独居高齢者等の中重度者や支援困難ケースに対応できるよう、地域連携をさらに推進し利用者さま・関係機関の期待に答えられるようにいたします。

また北区居宅介護支援事業者連絡会の幹事として、勉強会や事例検討会等を通して、地域包括ケアシステム構築のため地域ケア会議への事例提供など積極的に参加いたします。

